

能勢町における 公共交通を取り巻く現状

令和2年（2020年）10月29日
能勢町



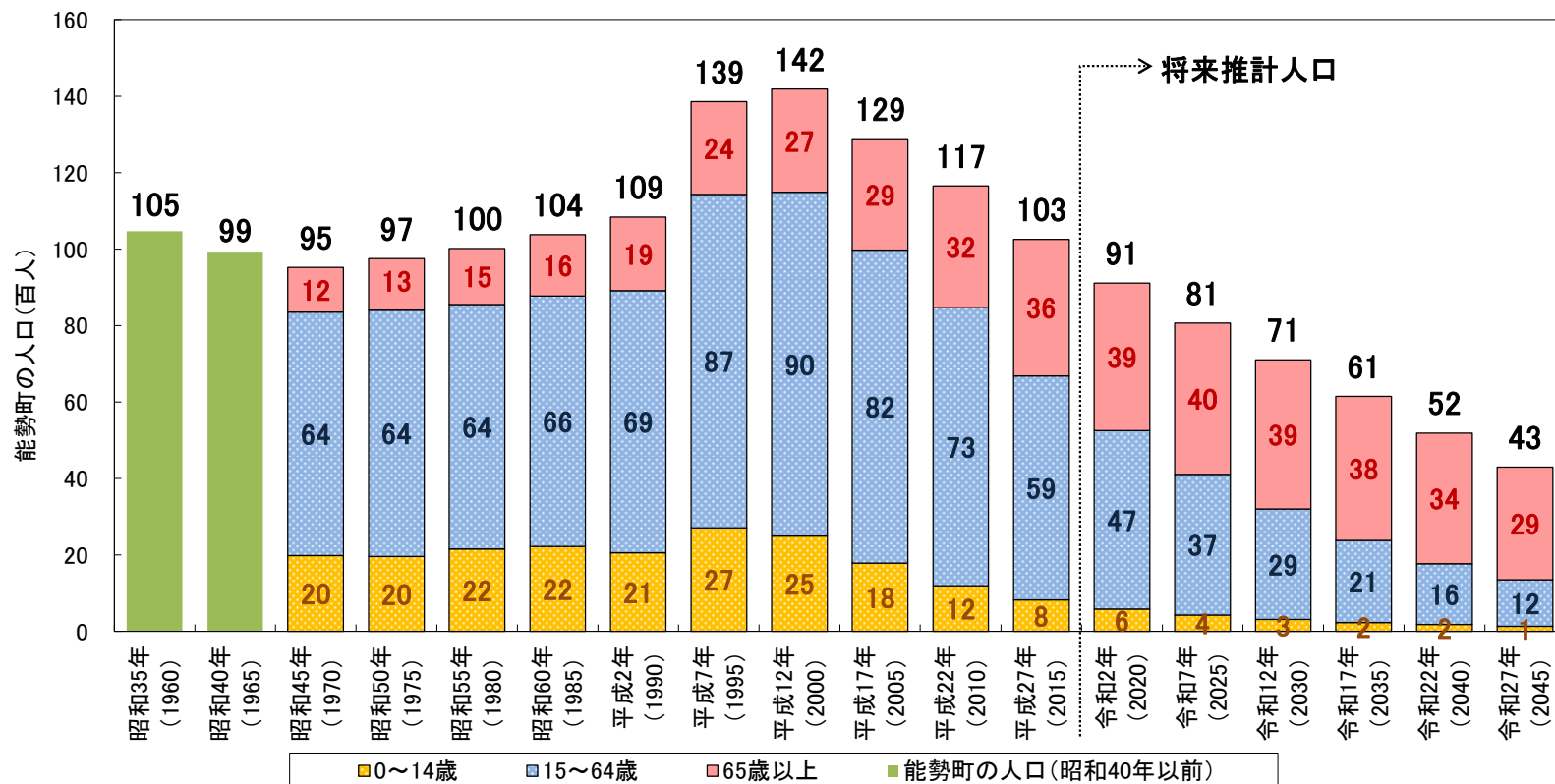
能勢PR キャラクター
「お浄・るりりん（アマビエver）」

1. 人口

■ 人口の推移

- 昭和45年（1970年）の9,521人から、平成2年（1990年）にかけて微増し、平成2年（1990年）から平成7年（1995年）の5年間に約3,000人の急増（27.9%増加）したが、平成12年（2000年）の14,186人をピークに減少傾向となり、平成27年（2015年）には10,256人となっている。
- 今後も生産年齢人口（15～64歳）の減少とともに、人口が減少するものと予測され、将来はさらに高齢化が進行するものと予測されている。

● 年齢3区分別人口の推移と将来推計



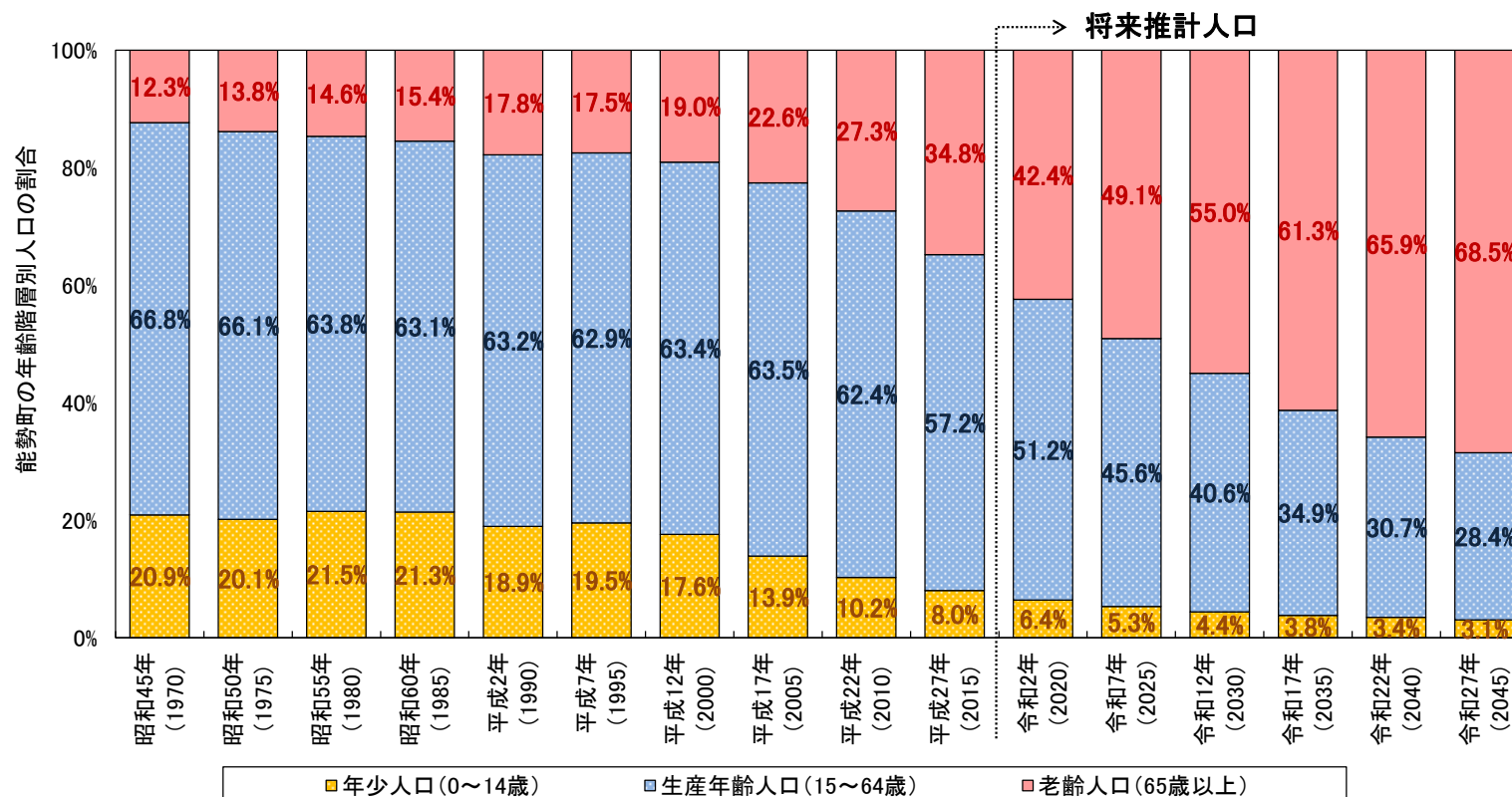
出典：国勢調査（昭和35年（1960年）～平成27年（2015年））、
国立社会保障・人口問題研究所による人口推計結果（平成30年（2018年）推計）（令和2年（2020年）以降が該当）

1. 人口

■ 年齢階層別人口割合の推移

- 高齢化率（65歳以上人口割合）は増加傾向にあり、平成27年（2015年）時点で34.8%と、超高齢社会（高齢化率が21%以上）に突入している。
- 年少人口（0～14歳人口割合）は減少傾向にあり、平成27年（2015年）時点では8.0%である。今後もさらに少子高齢化が進行するものと予測されている。

● 年齢階層別人口割合の推移と将来推計



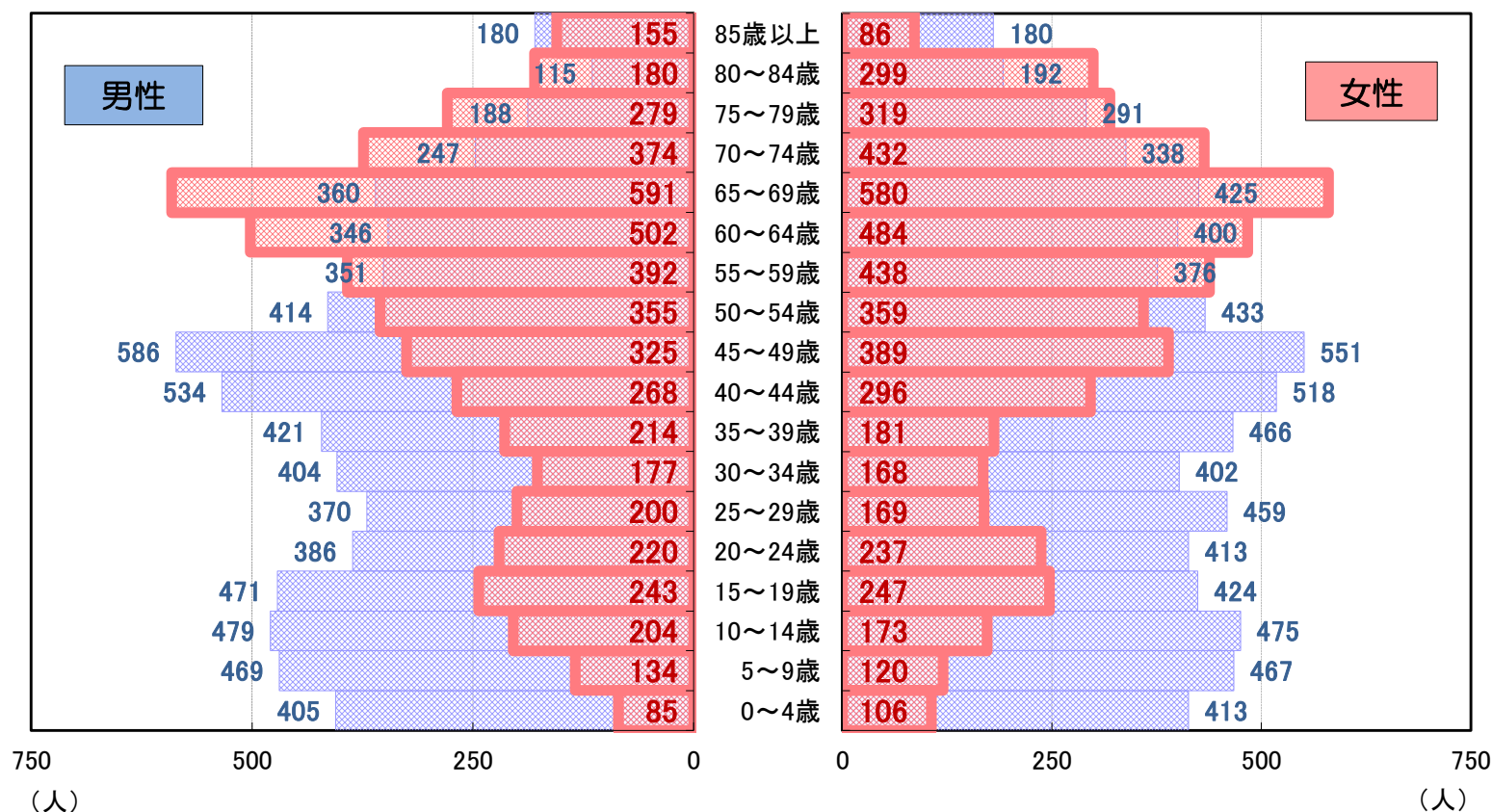
出典：国勢調査（昭和35年（1960年）～平成27年（2015年））、
国立社会保障・人口問題研究所による人口推計結果（平成30年（2018年）推計）（令和2年（2020年）以降が該当）

1. 人口

■ 年齢階層別人口の推移

○ 人口ピラミッドによる年齢階層別比較を見ると、年少人口（0～14歳）や生産年齢人口（15～64歳）のうち、40歳代以下の人口が減少し、高齢者（65歳以上）が増加している。

●人口ピラミッドによる年齢階層別比較



※各年10月1日現在

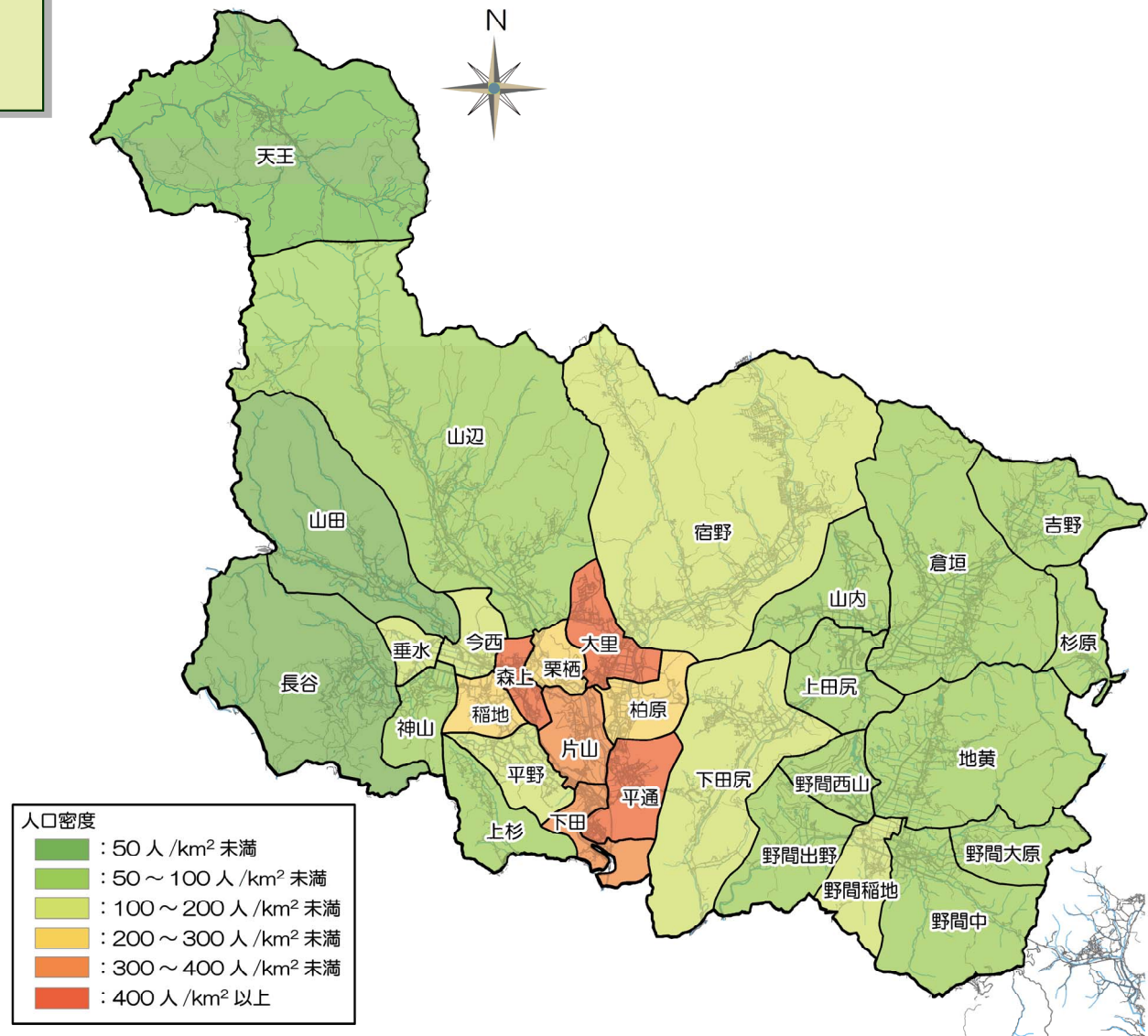
出典：国勢調査（平成7年（1995年）、平成27年（2015年））

1. 人口

■ 人口密度

○ 西地域の市街化区域がある大里、森上、平通、片山、下田において、人口密度が高い。

● 人口密度（平成27年（2015年））



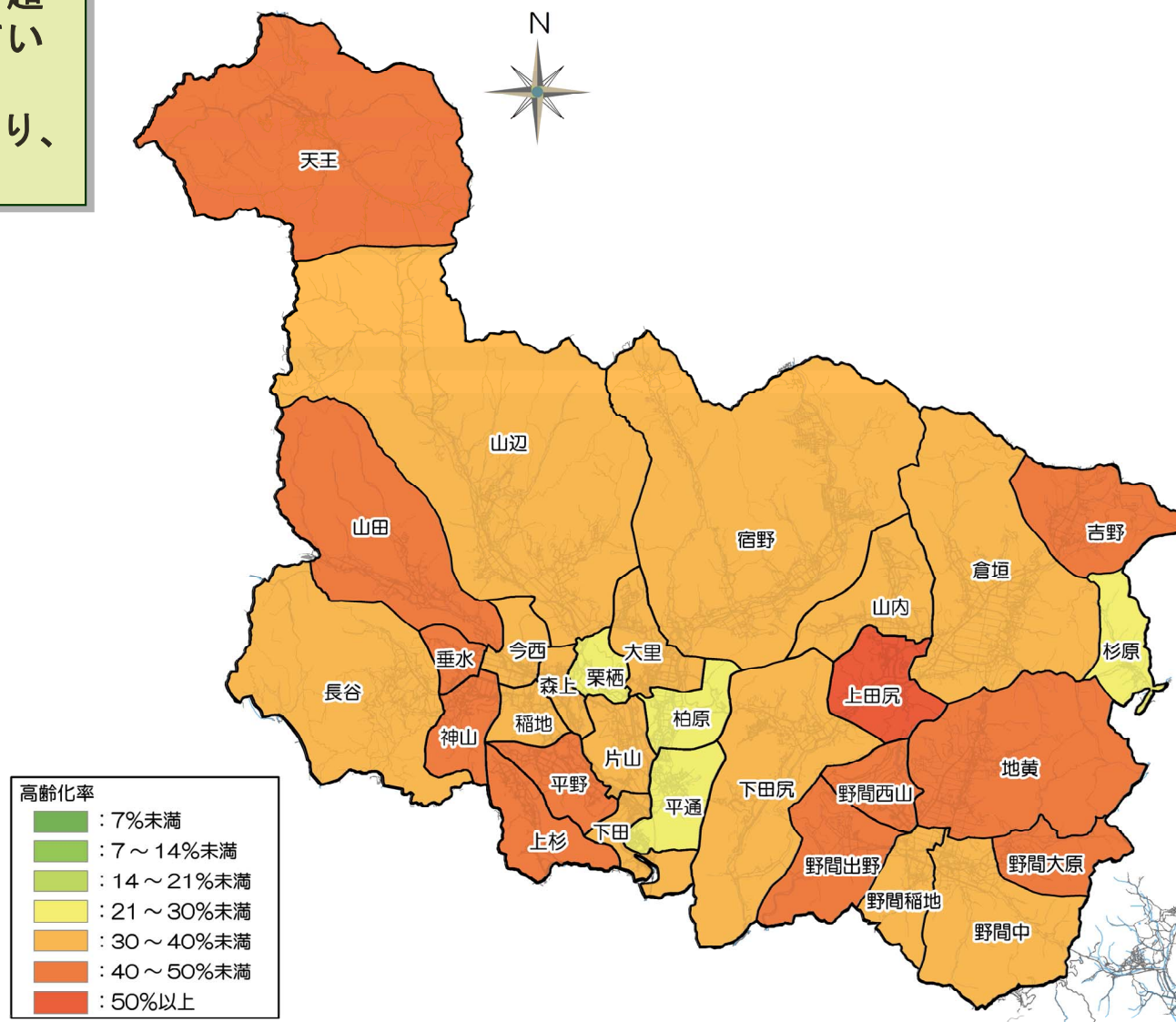
出典：国勢調査（平成27年（2015年））

1. 人口

■ 高齢化率

- 高齢化率は、全ての地区において超高齢化社会とされる21%を超えている。
- 上田尻の高齢化率は、53.8%であり、半数以上を占める。

● 高齢化率（平成27年（2015年））



2. 施設立地

■ 施設立地の状況

○ 公共施設、商業施設、医療施設（病院、診療所）の立地状況を見ると、主に西地域において立地している。

◆ 能勢町役場



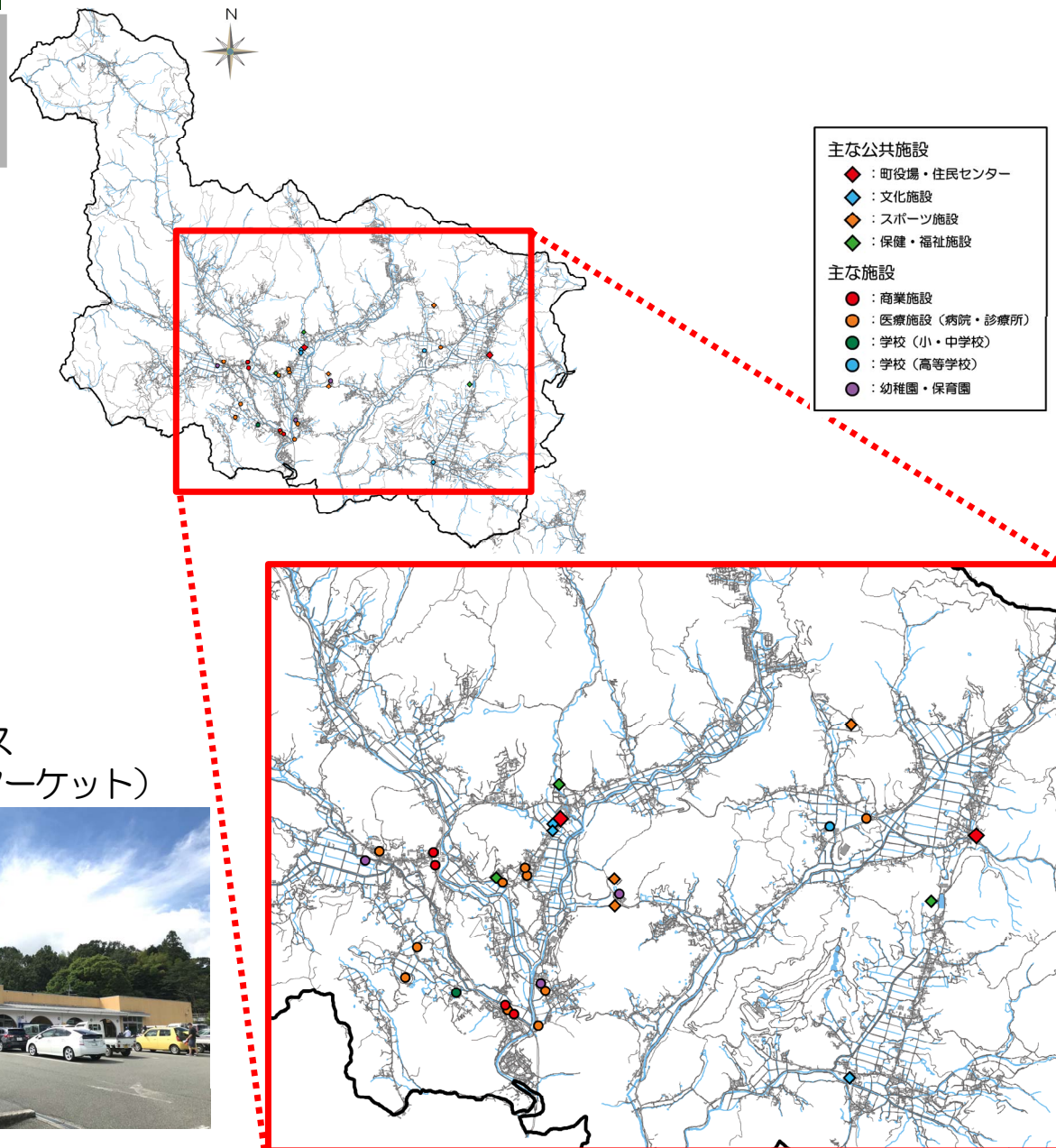
◆ 能勢町観光物産センター （道の駅：能勢くりの郷内）



◆ ノセボックス （スーパーマーケット）



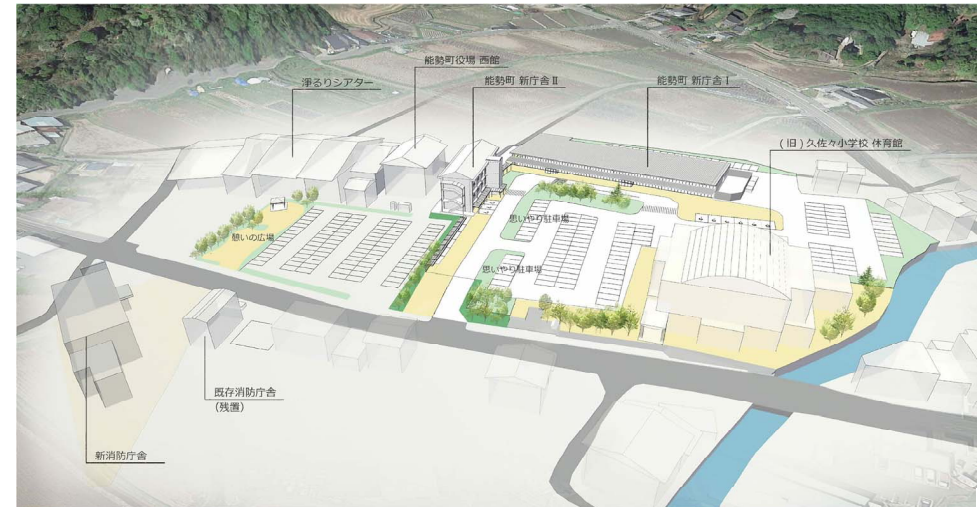
● 施設立地の状況



3. まちづくり

■ 新庁舎の再編整備

- 役場本館、南館、別館などの機能を集約した新庁舎の建設及び旧久佐々小学校の活用（一部改修）による再編整備を進めている。



■ 旧歌垣小学校再編整備

- 東地域の福祉拠点施設として、住民サービスセンター、国民健康保険診療所、東部デイサービスセンター等の複合化を図る再編整備を進めている。



3. まちづくり

■ 旧東郷小学校の再編整備

- 新たに防災拠点施設及び能勢町消防団第4機動隊格納庫の整備を進めている。



■ 新消防庁舎の整備

- 旧役場第1駐車場（豊中市北消防署能勢町分署の南隣）に新たに消防庁舎の整備を進めている。



4. 道路ネットワーク

■ 道路ネットワークの状況

- 道路ネットワークは、南北方向の国道173号と国道477号、東西方向の主要地方道茨木能勢線等により構成されている。

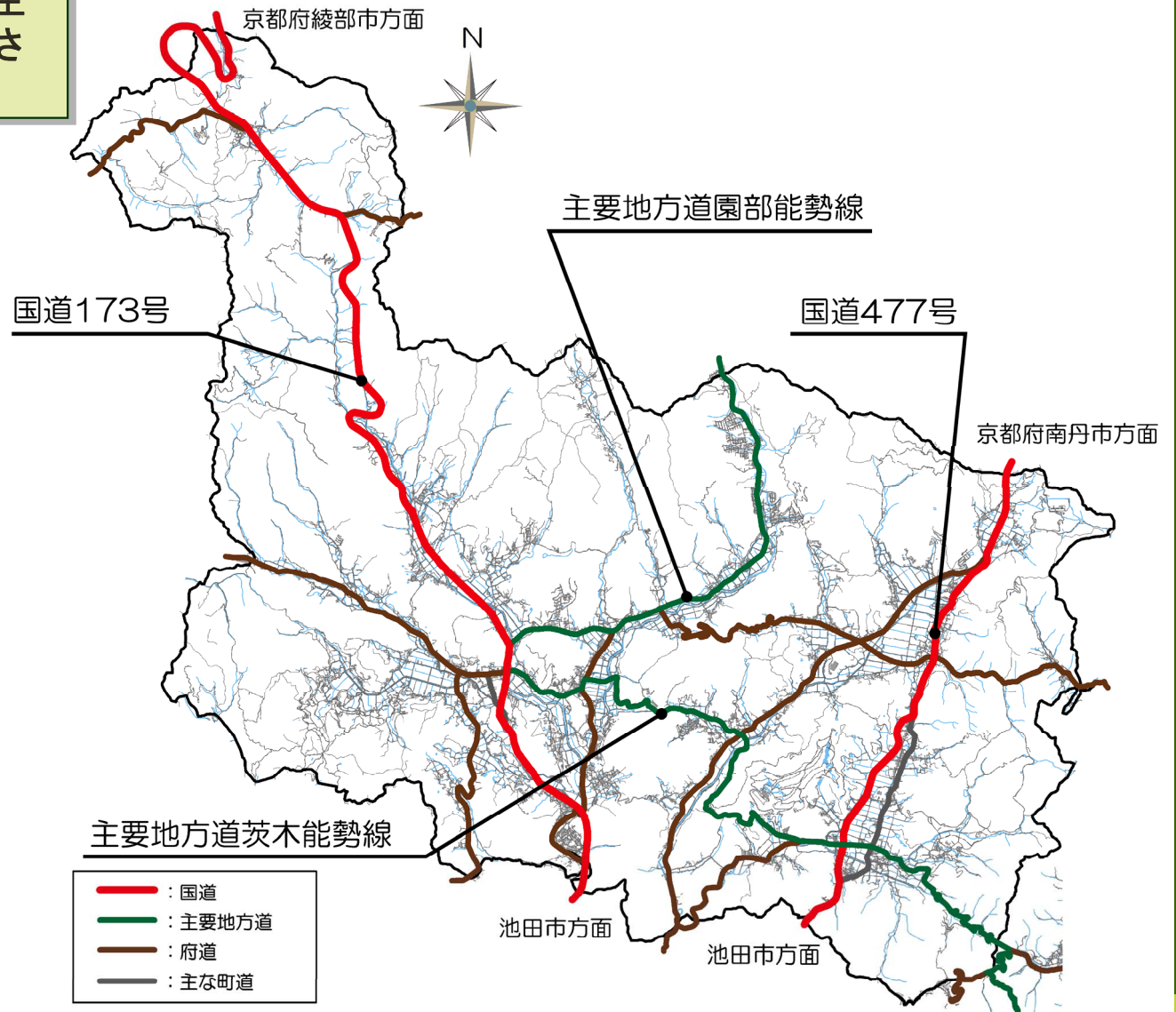
◆ 国道173号



◆ 国道477号



● 道路ネットワークの状況



5. 町内の公共交通等の状況

- 町内に鉄道はなく、最寄り鉄道駅は西地域が能勢電鉄山下駅、東地域が能勢電鉄妙見口駅である。
- 路線バスは、2路線を運行しており、町外の鉄道駅等への移動手段としての役割を担っている。
- 町内のタクシー事業者は1社であり、他の公共交通機関が運行していない時間帯における住民の移動及び来訪者の移動等の即時対応可能な移動手段としての役割を担っている。
- バスやタクシーなどの公共交通機関によっては住民に対する移動手段が確保できないと認められる場合において、NPO法人などの非営利団体が、営利目的とは認められない範囲の運送の対価によって、自家用自動車を使用して運送する「公共交通空白地有償運送」を町内2団体が運行している。
- NPO法人等の団体（営利を目的としない法人）が、単独で公共交通機関を利用できない身体障害者等を対象に、原則、ドアツードアの運送を行う「福祉有償運送」を町内1団体が運行している。
- 平成28年（2016年）4月に5小学校、2中学校を統合し新設された能勢町立能勢小学校・能勢町立能勢中学校（ささゆり学園）の開校に合わせ、町内10路線のスクールバスを導入している。

◆ 能勢電鉄（山下駅）



◆ 能勢電鉄（妙見口駅）



◆ 路線バス



◆ タクシー（山下駅）



6. 路線バス

■ バスネットワーク

- 路線バスは、能勢電鉄山下駅と西地域を結ぶ「西能勢線」と能勢電鉄妙見口駅・箕面森町地区センターと東地域を結ぶ「妙見口能勢線」の2路線により、バスネットワークを構成している。

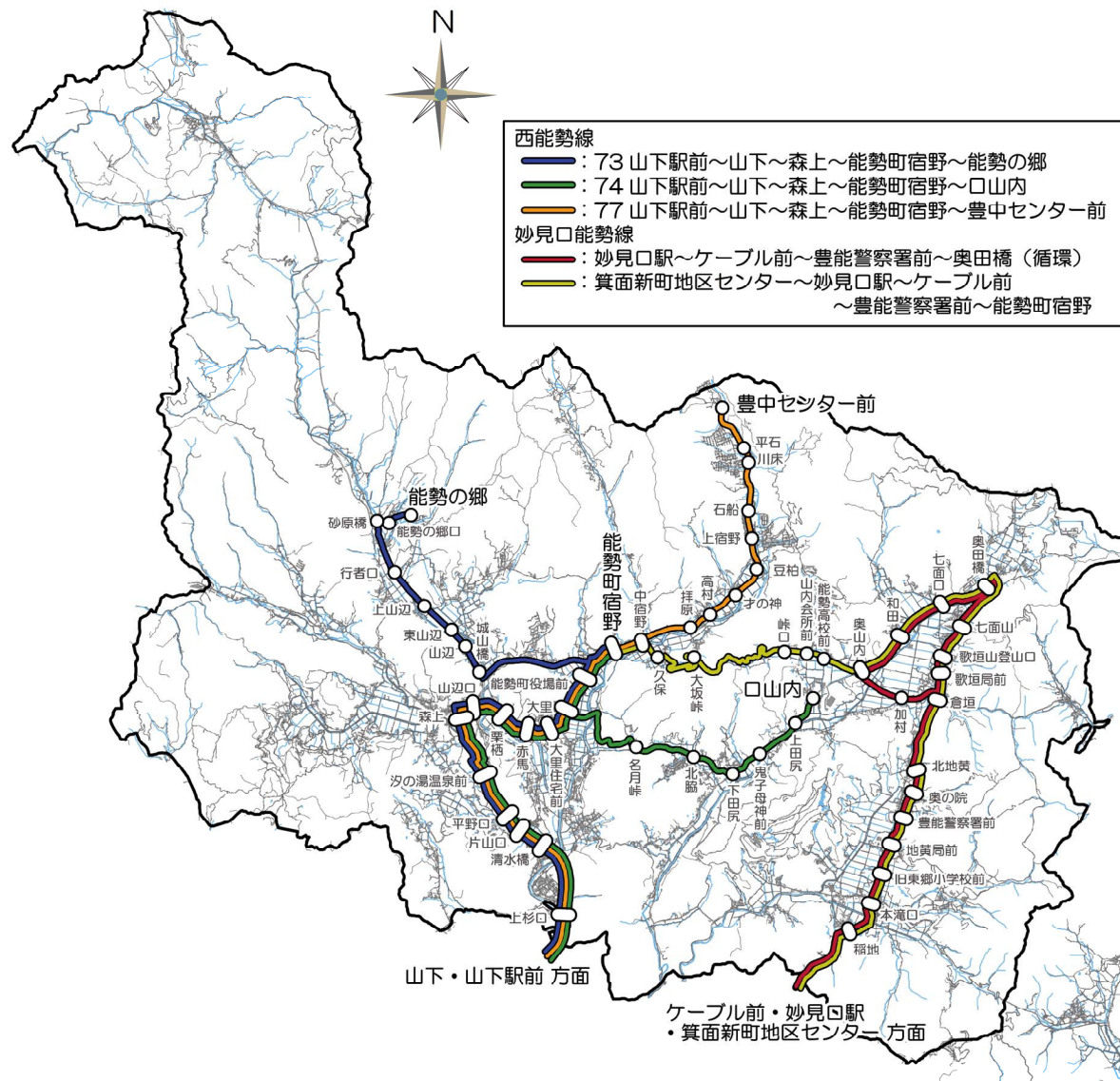
◆ 西能勢線（森上）



◆ 妙見口能勢線（旧東郷小学校前）



● バスネットワークの状況



6. 路線バス

■ バスサービス水準の推移

- 路線バスのサービス水準の推移を見ると、西能勢線（山下駅前系統）は、平成25年（2013年）に一部増便がされたが、平成29年（2017年）及び令和2年（2020）に減便している。また、杉原～口山内間は平成29年（2017年）4月に廃止されている。
- 西能勢線（日生中央系統）は令和2年（2020年）5月より、運休となっている。
- 妙見口能勢線は、平成25年（2013年）に一部減便をしている。

● バスサービス水準の推移（1/2）

【西能勢線：山下駅前系統（平日）】

（単位：便/日）

路線	方面	区間	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成29年 (2017)	令和2年 (2020)	増減 (平成24年⇒令和2年)
西能勢線	能勢町宿野⇒ 山下駅前方面	能勢町宿野⇒山下駅前間	20	22	22	16	-4
		口山内⇒能勢町宿野間	7	7	6	5	-2
		杉原⇒口山内間	3	3	(廃止)		-3
		豊中センター前⇒能勢町宿野間	7	8	8	6	-1
		能勢の郷⇒能勢町宿野間	2	2	2	(土休日 のみ運行)	-2
	山下駅前⇒ 能勢町宿野方面	山下駅前⇒能勢町宿野間	20	19	19	16	-4
		能勢町宿野⇒口山内間	5	6	5	5	0
		口山内⇒杉原間	2	3	(廃止)		-2
		能勢町宿野⇒豊中センター前間	6	7	7	5	-1
		能勢町宿野⇒能勢の郷間	2	2	2	(土休日 のみ運行)	-2

【西能勢線：日生中央系統（平日）】

（単位：便/日）

路線	方面	区間	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成29年 (2017)	令和2年 (2020)	増減 (平成24年⇒令和2年)
西能勢線	能勢町宿野⇒ 日生中央方面	能勢町宿野⇒日生中央間	3	2	2	(運休)	-3
	日生中央⇒ 能勢町宿野方面	日生中央⇒能勢町宿野間	3	2	2	(運休)	-3

※各年10月1日時点

※西能勢線（山下駅前系統）の杉原～口山内間は平成29年（2017年）4月1日に廃止

※西能勢線（日生中央系統）は平日のみ運行、令和2年（2020年）5月25日より運休

6. 路線バス

■ バスサービス水準の推移

● バスサービス水準の推移（2/2）

【西能勢線：山下駅前系統（土休日）】

（単位：便/日）

路線	方面	区間	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成29年 (2017)	令和2年 (2020)	増減 (平成24年⇒令和2年)
西能勢線	能勢町宿野⇒ 山下駅前方面	能勢町宿野⇒山下駅前間	17	18	18	13	-4
		口山内⇒能勢町宿野間	(平日のみ運行)				-
		杉原⇒口山内間	(平日のみ運行)		(廃止)		-
		豊中センター前⇒能勢町宿野間	5	6	6	5	0
		能勢の郷⇒能勢町宿野間	6	2	2	2	-4
	山下駅前⇒ 能勢町宿野方面	山下駅前⇒能勢町宿野間	18	15	15	13	-5
		能勢町宿野⇒口山内間	(平日のみ運行)				-
		口山内⇒杉原間	(平日のみ運行)		(廃止)		-
		能勢町宿野⇒豊中センター前間	4	5	5	5	1
		能勢町宿野⇒能勢の郷間	6	2	2	2	-4

【妙見口能勢線（平日・土休日）】

（単位：便/日）

路線	方面	区間	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成29年 (2017)	令和2年 (2020)	増減 (平成24年⇒令和2年)
妙見口 能勢線	能勢町宿野⇒ 奥山内⇒妙見口駅	能勢町宿野⇒奥山内間	2	2	2	2	0
		奥山内⇒奥田橋⇒妙見口駅	10	10	10	10	0
		うち妙見口駅⇒箕面森町センター	-	(2)	(2)	(2)	(2)
	妙見口駅⇒奥山内 ⇒能勢町宿野	奥山内⇒能勢町宿野間	2	2	2	2	0
		妙見口駅⇒加村⇒奥山内	8	7	7	7	-1
		うち箕面森町センター⇒妙見口駅	-	(2)	(2)	(2)	(2)

※各年10月1日時点

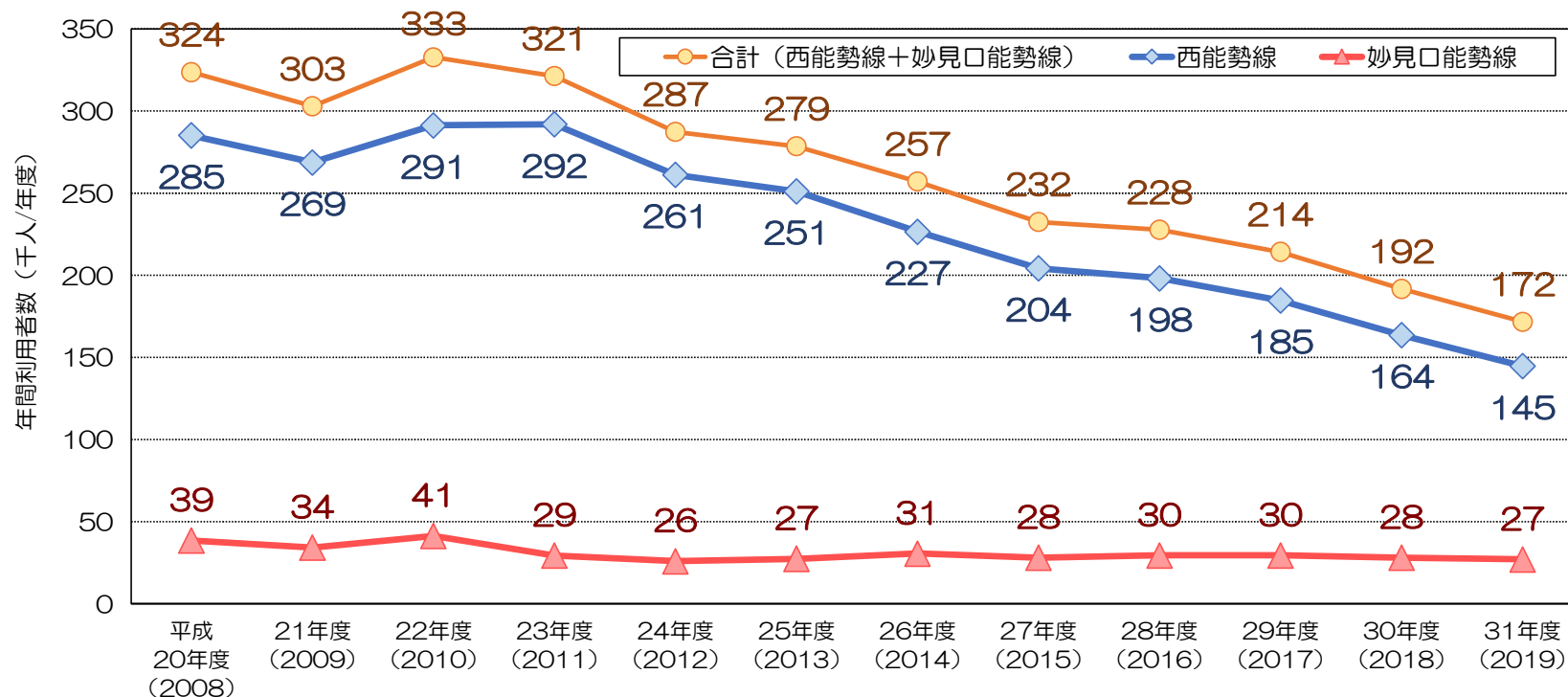
※西能勢線（山下駅前系統）の杉原～口山内間は平成29年（2017年）4月1日に廃止

6. 路線バス

■ 利用者数の推移

- 路線バスの年間利用者数の推移を見ると、平成31年度（2019年度）は約172千人/年と平成20年度（2008年度）の約5割に減少している。
- 路線別に見ると、西能勢線において、平成23年度（2011年度）以降は減少傾向、妙見口能勢線も平成29年度（2017年度）以降は減少傾向にある。

● 年間利用者数の推移



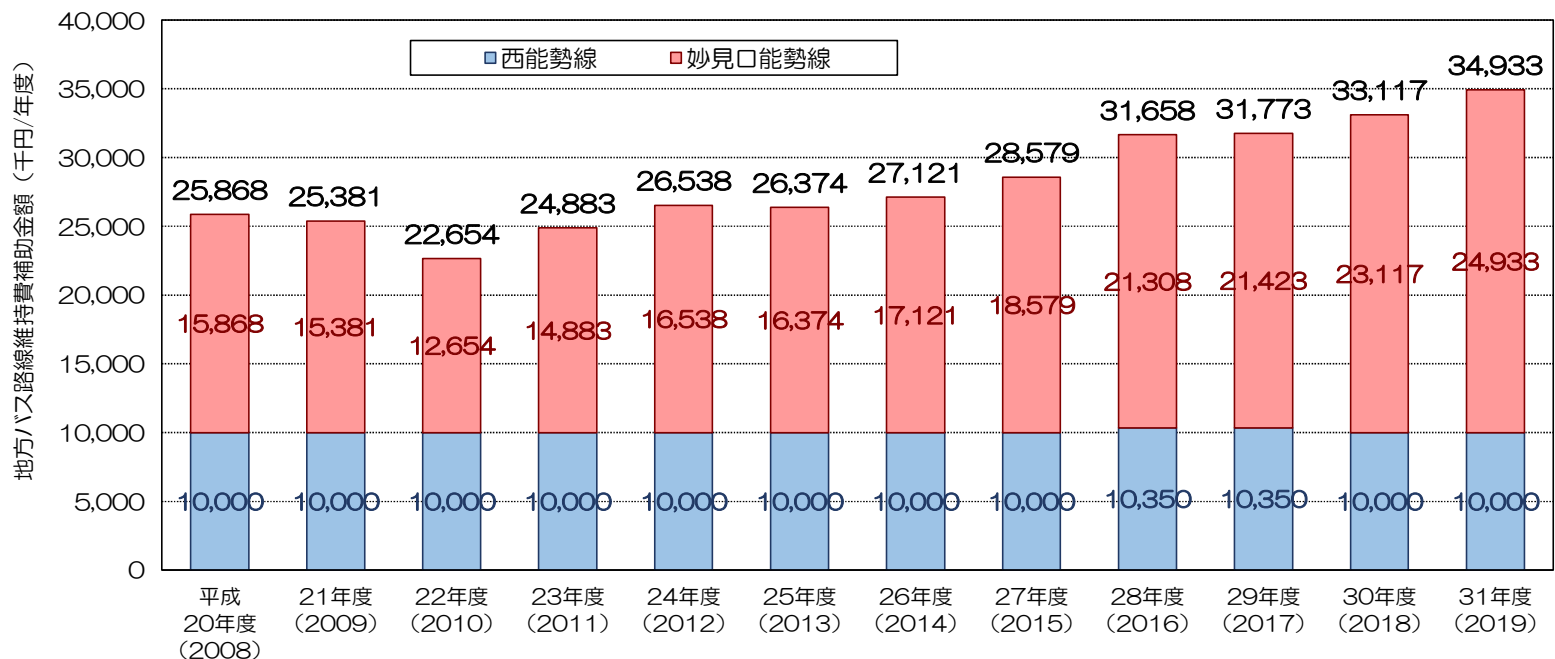
※阪急バス株式会社資料をもとに作成

6. 路線バス

■ 地方バス路線維持費補助金の推移

- 路線バスの維持を図るために、「地方バス路線維持費補助金」として、運行経費の赤字分を妙見口能勢線は全額負担、西能勢線は上限1,000万円/年を負担している。
- 平成31年度は年間約3,500万円（町民1人あたり約3,500円/年）を負担しており、近年は負担額が増加傾向にある。
- この負担金だけで町内における路線バスの赤字をすべて賄うものではなく、路線バス事業者も多額の赤字を負担し、運行を続けている。

● 地方バス路線維持費補助金の推移



※能勢町資料及び阪急バス株式会社資料をもとに作成

6. 路線バス

■ バス乗務員の状況

- バス事業者は乗務員に必要な大型自動車第二種免許証の保有者数及び新規取得者数の減少や免許証の保有者の高齢化の進行に伴い、乗務員が慢性的に不足している。
- この乗務員不足に対応できない場合、バス路線の規模を乗務員数に応じた路線規模に縮小せざるを得なくなることが想定され、町内の路線においてもさらなる減便や廃止となることが懸念される。
- 大阪府における大型自動車第二種免許証保有者を年齢別に見ると、60歳以上が約5割、40歳未満の若年層は1割未満。

● 運転士の正社員採用 (阪急バス 平成31年(2019年)4月～)

NEWS RELEASE 阪急バス株式会社



2019. 02. 05

運転士の正社員採用について

阪急バス株式会社(本社:大阪府豊中市、社長:井波 洋)では、2019年4月より新たに運転士として入社する社員のすべてを正社員として採用することを決定し人事制度を見直します。また併せて、在籍している契約社員運転士約140名を正社員に登用します。

主旨及び概要は以下の通りです。

1. 主旨

少子高齢化の進展による生産年齢人口の減少等により、バス業界における人手不足が深刻化する中、運転士の人材を継続的に確保することが重要な経営課題となっています。また、2019年4月1日より働き方改革関連法が順次施行され、同 労働同 賃金の実現に向けた取り組みが求められます。

そこで、運転士の契約社員制度を廃止し、運転士を正社員として採用する人事制度の見直しを行い、これらの課題に対応するとともに、運転士の確保強化による一般乗合バス路線の維持に努めてまいります。

2. 概要

(1) 運転士の新規採用時の正社員採用

当社はこれまで、正社員への登用を前提に契約社員として運転士を採用してまいりました。勤務状況を見極めたうえ、おおよそ入社後3年程度で正社員に登用してきましたが、より積極的に採用活動を行い、社員が安心して働くことができる環境を整備するため、2019年4月1日以降に入社する運転士を正社員として採用してまいります。

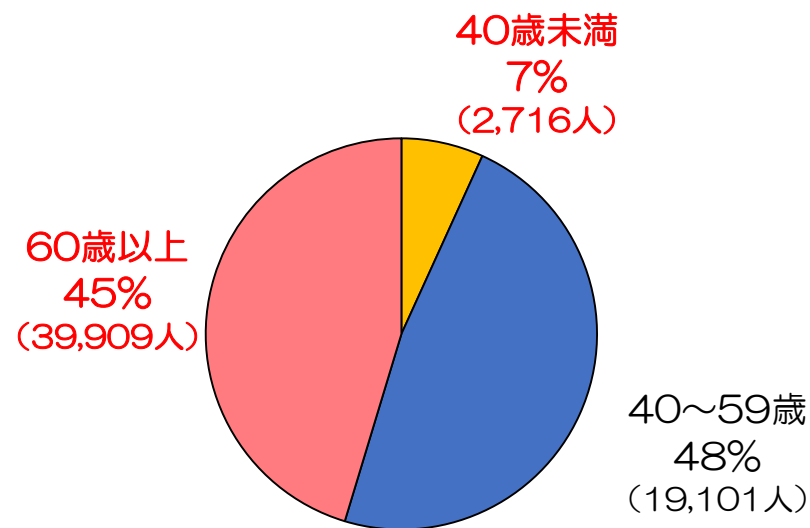
(2) 既存契約社員の正社員登用

新規採用時の正社員採用を受け、現在在籍している契約社員運転士約140名について、原則2019年4月1日付で正社員に登用します。

以上

出典: 阪急バス株式会社HP

● 大阪府における 大型自動車第二種免許証保有者の年齢構成 (令和元年度(2019年度))



出典: 運転免許統計
(令和元年度(2019年度)版 警察庁)

7. タクシー

■ タクシー事業の現状

- 町内のタクシー事業者は1社、配置車両は2台であり、他の公共交通機関が運行しない時間帯における住民の移動手段等としてのセーフティーネットの役割を担っている。
- 大阪府全体における法人タクシーの1日あたり輸送人員の推移は、減少傾向にある。
- 豊能郡地区における実車率の推移は、40%台後半で推移している。実車率は50%を下回ると輸送効率が悪いとされており、豊能郡地区における輸送効率の改善に余地がある。

●町内のタクシー事業者数、営業所数及び配置車両台数

	事業者数	営業所数	配置車両台数
能勢町	1社	1カ所	2台

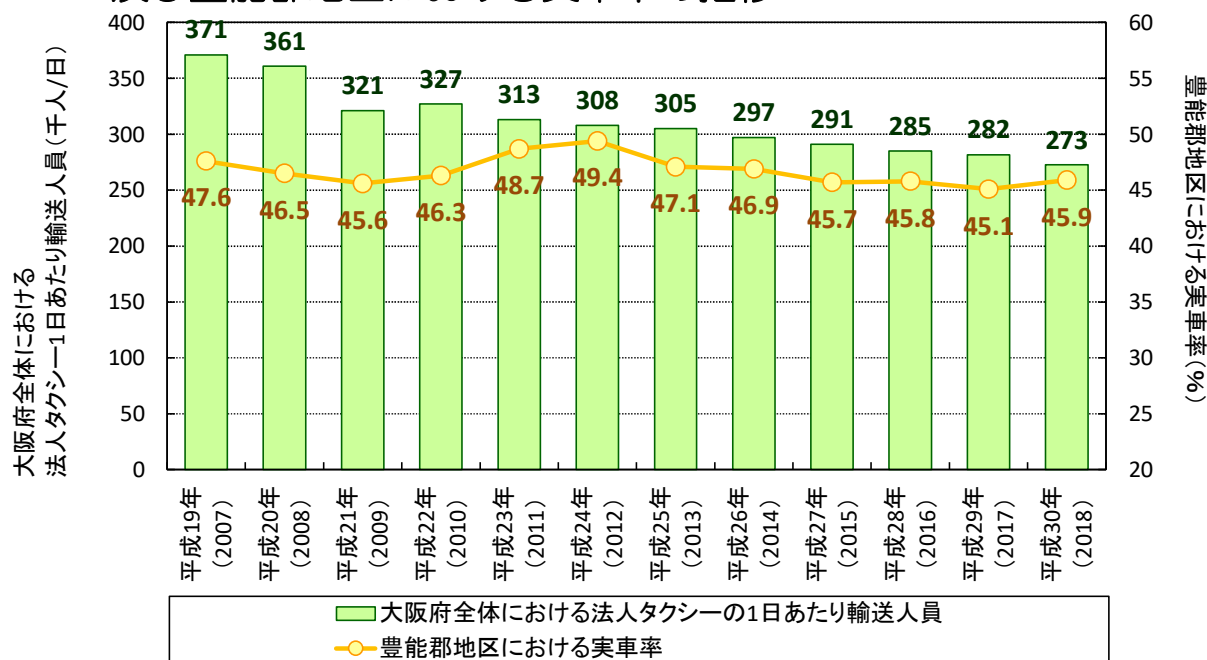
※平成31年（2019年）3月31日時点

出典：大阪におけるタクシー事業の現状
(令和2年1月 一般社団法人大阪タクシー協会)

●実車率とは

タクシーが実際に走行した距離のうち、利用者が乗車している状態で走行した距離の割合を示す。

●大阪府全体における法人タクシーの1日あたり輸送人員及び豊能郡地区における実車率の推移



出典：大阪におけるタクシー事業の現状（令和2年1月 一般社団法人大阪タクシー協会）、
近畿運輸局業務要覧（平成30年版 国土交通省近畿運輸局）

8. 公共交通空白地有償運送

■ 概要

- 平成18年度（2006年度）に廃止した「福祉バス」に替わる新たな交通システムとして、「公共交通空白地有償運送」の導入を決定し、平成19年（2007年）4月より運行開始している。
- バスやタクシーなどの公共交通機関だけでは、十分な輸送サービスが確保できない場合、一定の要件を満たしたNPO法人などが運送主体となり、事前に会員登録した住民などから、タクシーの半額程度の対価を収受して運行する形態である。
- 公共交通空白地有償運送の導入に際しては、平成18年度（2006年度）に「公共交通空白地（旧過疎地）有償運送運営協議会」を設置し、本運送制度の必要性や運送区域、運送主体からの申請内容等について協議を行っている。

●公共交通空白地有償運送の概要

運行主体	・能勢町社会福祉協議会 ・NPO法人 のせ田里伊能
運送区域	・能勢町内（発着地とも）
利用要件	運送主体に事前に会員登録をされた方で下記の条件のいずれかに該当する方 （1）能勢町内に住所を有する者及びその親族 （2）能勢町内に存する官公庁、病院、その他の公共的施設の利用者 （3）能勢町内において日常生活に必要な用務を反復継続して行う必要がある者
利用料金	概ねタクシー料金の半額程度 ※運送主体に会員登録をされる際に登録費用が必要（初回のみ）
利用方法	利用希望日の2日前までに直接運送主体に電話により申込み ※土・日・祝日を除く

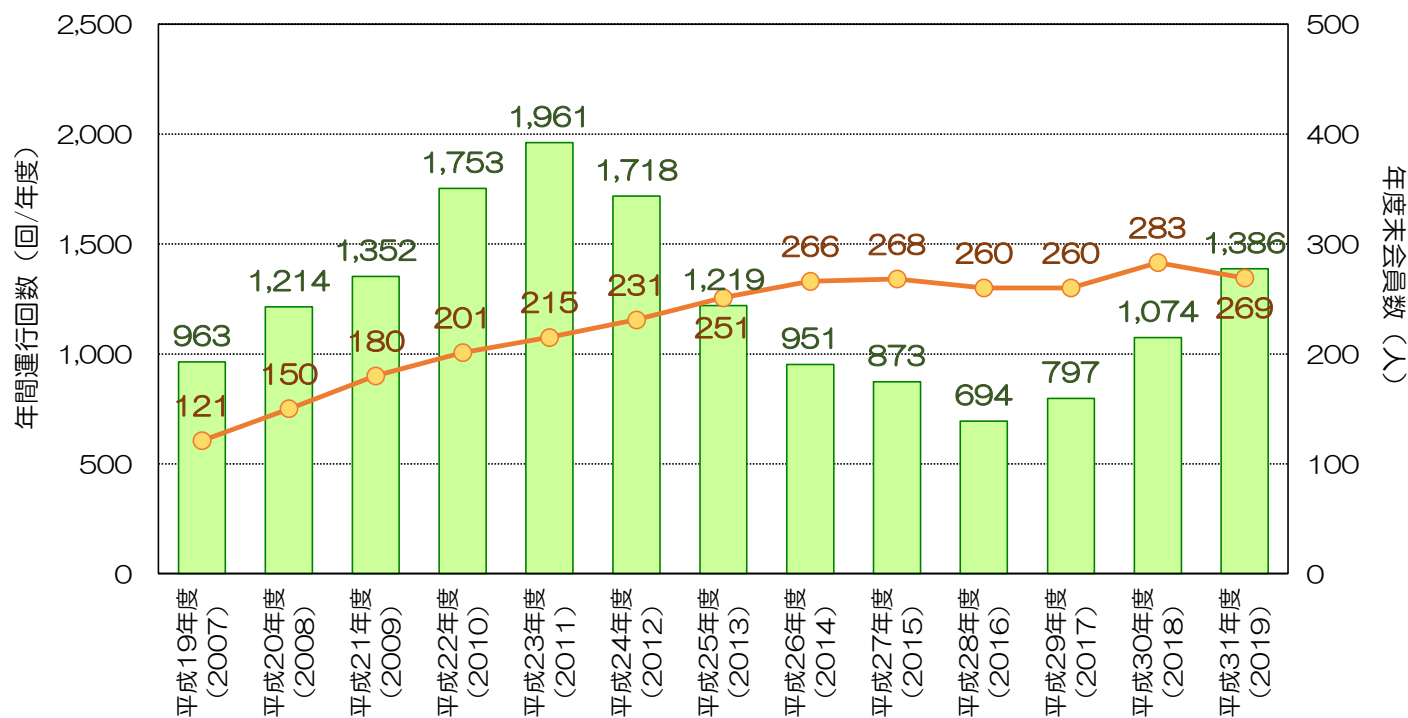


8. 公共交通空白地有償運送

■ 年間運行回数と会員数の推移

- 公共交通空白地有償運送の年間運行回数は、平成31年度（2019年度）で1,386回/年度である。
- 平成23年度（2011年度）の1,961回/年度をピークに平成28年度（2016年度）にかけて減少傾向にあったが、近年は増加傾向にある。
- 年度末時点の会員数は、平成31年度（2019年度）で269人であり、近年はほぼ横ばいの傾向にある。

● 年間運行回数と年度末会員数の推移



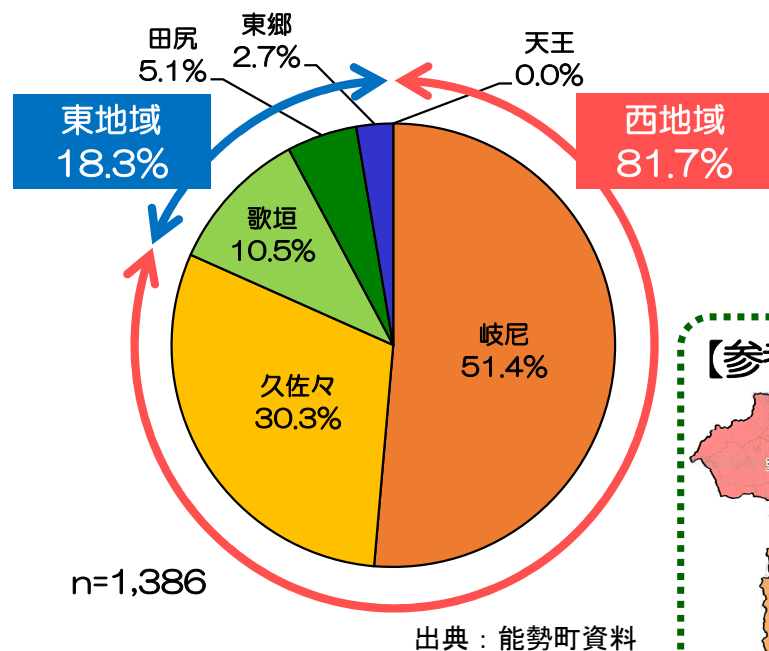
出典：能勢町資料

8. 公共交通空白地有償運送

■ 利用者ニーズ

- 利用者の住まいの地域を見ると、西地域（天王地区・岐尼地区・久佐々地区）が8割以上を占め、東地域（歌垣地区・田尻地区・東郷地区）は約2割である。
- 利用目的を見ると、「町外へ行くため、バス停まで」が約38%と最も多く、次いで「通院」が約25%、「買い物」が約17%の順である。

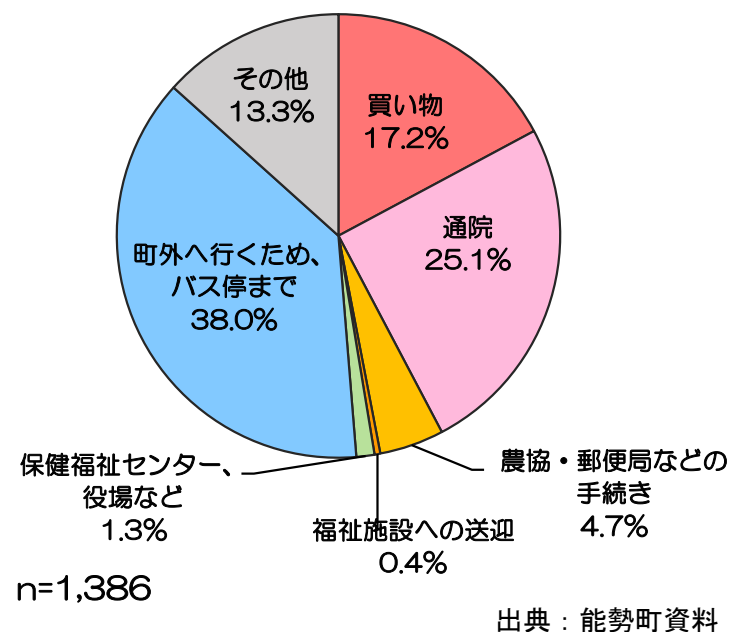
●住まいの地域



【参考】地域区分



●利用目的



9. 福祉有償運送

■ 概要

- 福祉有償運送は、福祉タクシー等による輸送サービスが十分提供されていない地域において、NPO法人等が、単独で公共交通機関を利用できない高齢者や障がい者の方々などに対して、有償（営利とは認められない範囲の対価）で行う自家用自動車による個別輸送サービスである。
- 能勢町内では、1団体により運行されている。

●福祉有償運送の概要

運行主体	・ NPO法人 のせ田里伊能
運送区域	・ 豊能郡を発着地に広域で利用可能
利用要件	運送主体に会員登録を行い、おひとりでは公共交通機関の利用が困難であり、下記の条件のいずれかに該当する方（※付添いの方の乗車も可） ・ 身体障害者福祉法第4条に規定する身体障がい者 ・ 介護保険法第19条第1項に規定する要介護認定を 受けている者 ・ 介護保険法第19条第2項に規定する要介護認定を 受けている者 ・ その他肢体不自由、内部障がい、知的障がい、精神障がい、その他の障がいを有する者
利用料金	概ねタクシー料金の半額程度 ※運送主体に会員登録をされる際に登録費用が必要（初回のみ）
利用方法	利用希望日の2日前までに直接運送主体に電話により申込み ※土・日・祝日を除く

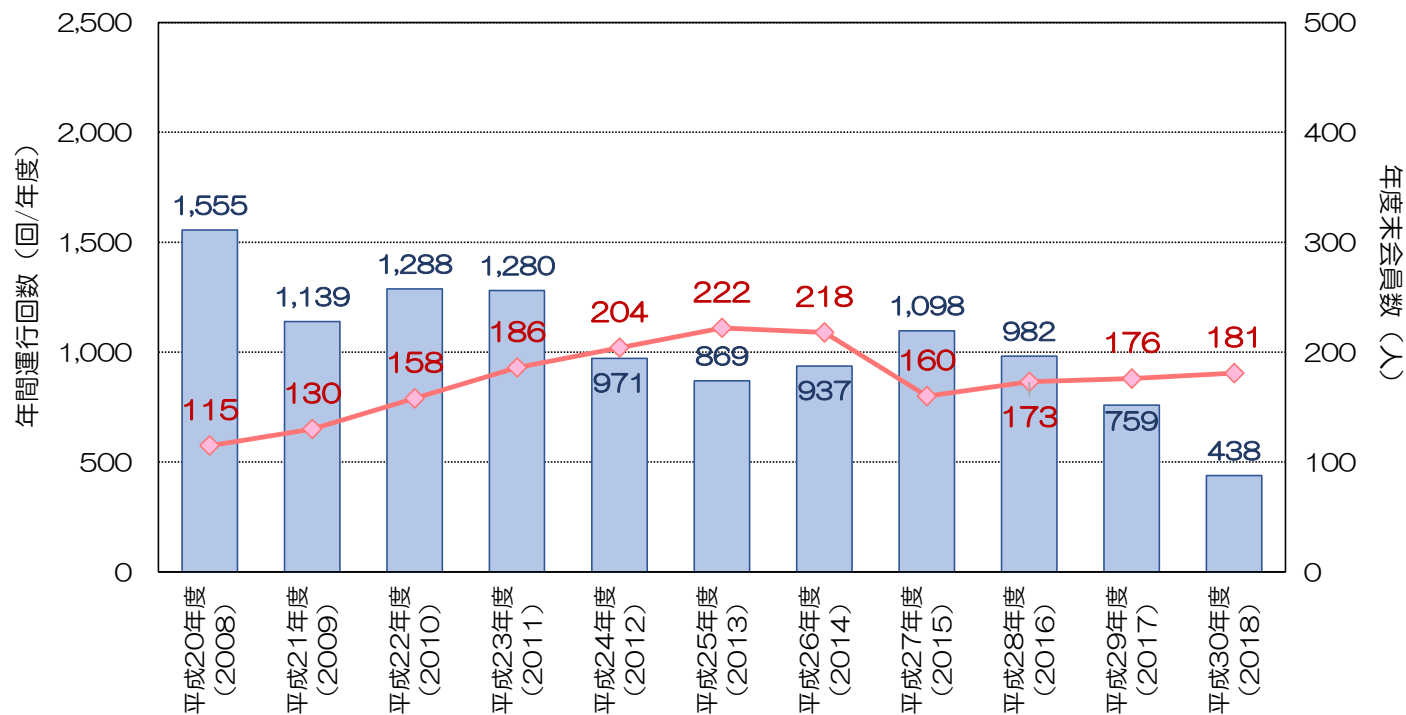
出典：能勢町資料

9. 福祉有償運送

■ 年間運行回数と会員数の推移

- 福祉有償運送の年間運行回数は、平成30年度（2019年度）で438回/年度である。
- 平成20年度（2008年度）の1,555回/年度をピークに減少傾向にある。
- 年度末時点の会員数は、平成30年度（2019年度）で181人であり、平成27年度（2015年度）以降、微増傾向にある。

●福祉有償運送の概要



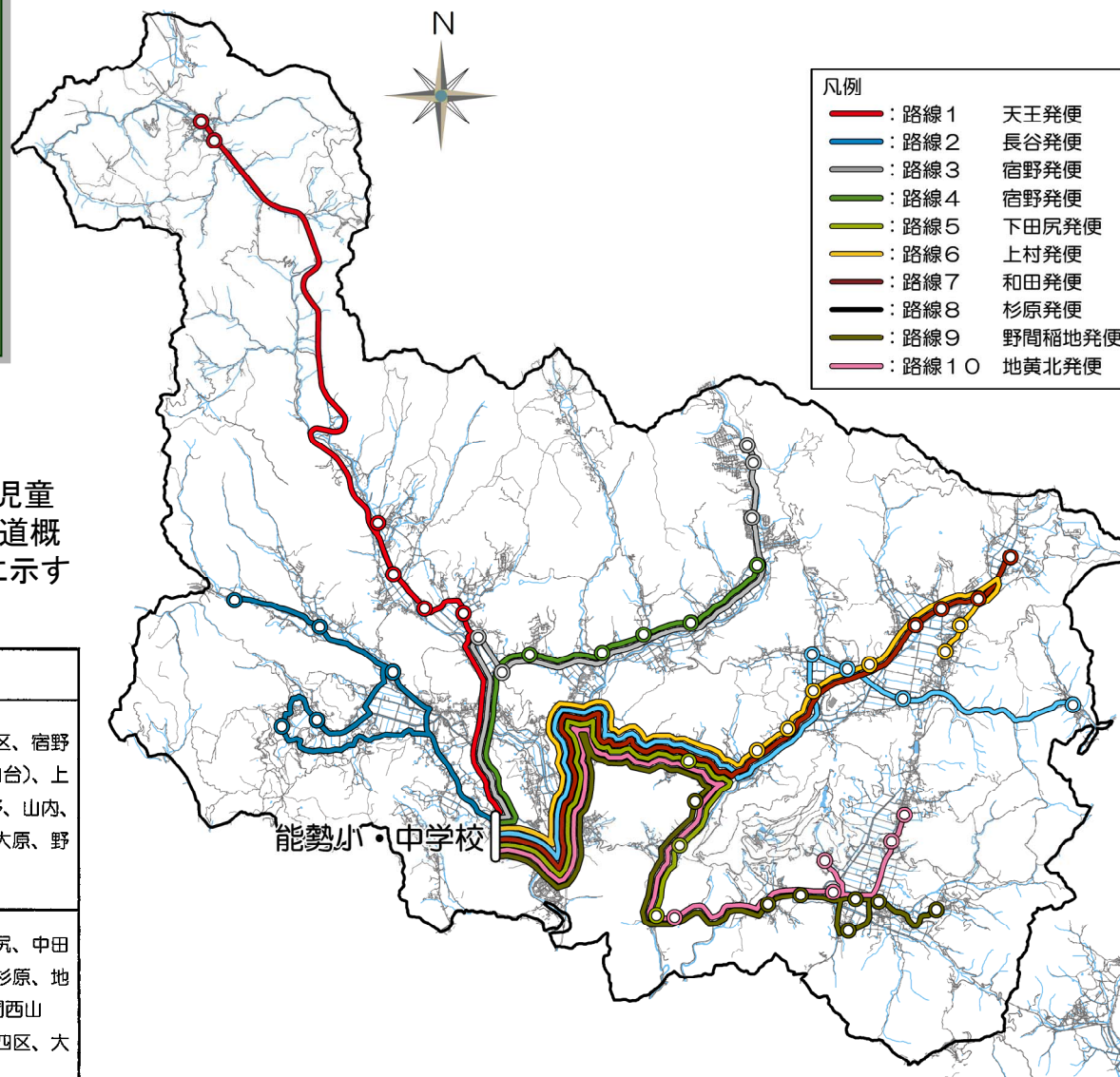
出典：能勢町資料

10. スクールバス

■ 概要

- 平成28年（2016年）4月に能勢町立能勢小学校・能勢町立能勢中学校（ささゆり学園）の開校に合わせて、スクールバスを導入している。
- スクールバスは、中型バス4台、マイクロバス6台、町内10路線を設定しており、登校時1便、下校時3便を運行している。

●スクールバスの運行路線図



●スクールバス利用対象範囲

登校班を基本とする通学距離が片道概ね3km以上の児童（小学生）、片道概ね6km以上の生徒（中学生）及び片道概ね3～6kmのバス通学選択の生徒（中学生）で、下表に示す対象地区に居住する児童が対象。

区分	スクールバス利用対象地区
児童（小学生）	天王、長谷、山田、上山辺、東山辺、宿野北区、宿野みどり区、宿野東区、宿野一区、宿野二区、宿野三区、宿野四区、大里（城山台）、上田尻、中田尻、下田尻、嘉村、西村、上村、長尾、和田、吉野、山内、杉原、地黄北、地黄南、野間中、野間稲地、野間出野、野間大原、野間西山
生徒（中学生） ※バス通学選択地区	天王、宿野北区、宿野みどり区、宿野東区、宿野一区、上田尻、中田尻、下田尻、嘉村、西村、上村、長尾、和田、吉野、山内、杉原、地黄北、地黄南、野間中、野間稲地、野間出野、野間大原、野間西山 ※長谷、山田、上山辺、東山辺、宿野二区、宿野三区、宿野四区、大里（城山台）、

出典：令和2年度スクールバス利用の手引き（能勢町教育委員会）

※令和2年度スクールバス利用の手引き（能勢町教育委員会）をもとに作成